

お知らせ:次回発信日は9月11日週報(予定)

Jミルクが2025年8月1日に公表した「需給見通し(※2025年5月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【7月の統計実績】

● 生乳生産量

全国が、前年同月比+1.2%(日均量、以下同)となり、12カ月連続で前年水準を上回った。地域別では、北海道が+2.1%と全国同様に12カ月連続で前年水準を上回った。都府県は▲0.1%と13カ月連続で前年水準を下回った。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)において7月下旬に猛暑の影響などで+0.9%まで増加幅が縮小したが、8月以降は再び増加幅を拡大し8月下旬は+2.2%となった。都府県では、7月下旬から8月中旬まで3旬連続で前年水準を上回り、8月中旬は+2.2%まで増加幅が拡大した。

● 牛乳等生産量

牛乳の生産量は、物価高騰の影響により5月、6月は2カ月連続で前年水準を下回ったが、7月は猛暑に伴う需要増加で3カ月ぶりに前年超えとなった。牛乳以外の品目も消費が伸び、加工乳が2カ月連続、乳飲料が21カ月ぶりに前年水準を上回った。この結果、牛乳類全体としては2022年8月以来、35カ月ぶりに前年水準を上回った。発酵乳についても、2カ月連続で前年を上回った。これらの動向を受け、生乳の飲用等向処理量が増加し、前年同月比は+1.8%と3カ月ぶりに前年水準を上回った。その一方で、乳製品向け処理量は+0.6%にとどまった。

● 乳製品需給

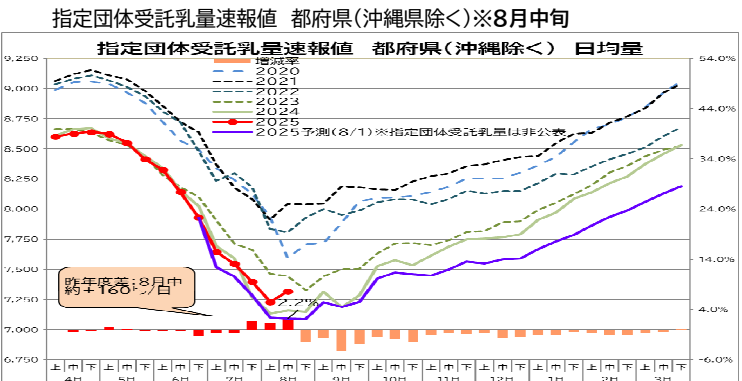
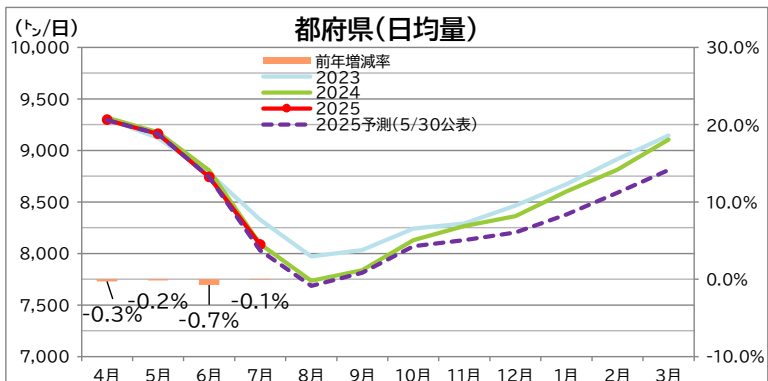
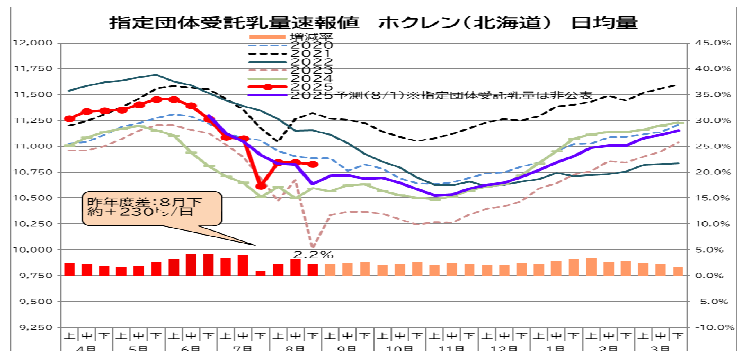
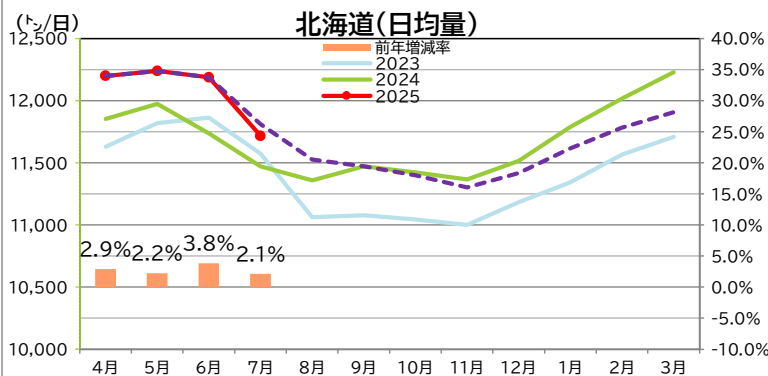
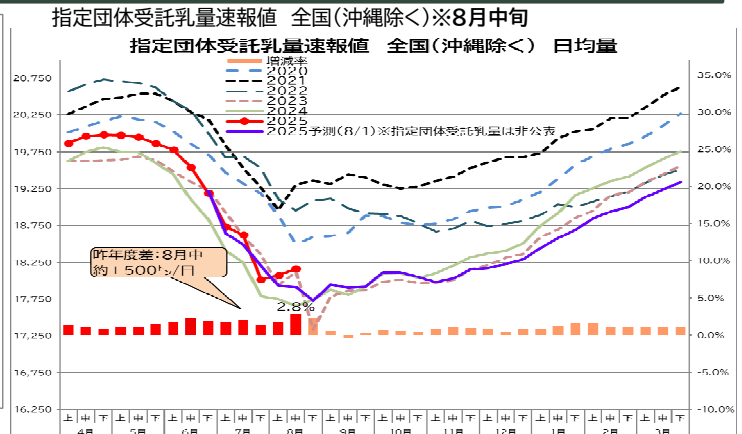
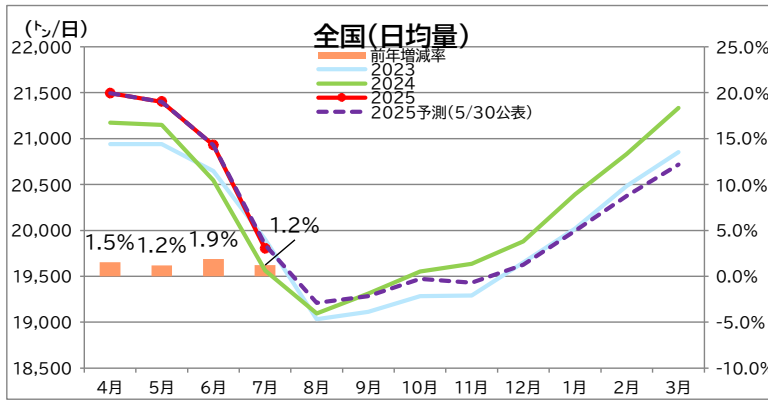
脱脂粉乳は、生産量が11.4千ト、推定出回り量は11.8千トと、需要量が供給量を上回り、月末在庫量は63.5千ト(前年同月比+21.5%)と8カ月連続で前年水準を上回ったものの、前月から0.3千ト減少した。在庫量が60千トを超えるのは、3カ月連続。バターは生産量が5.5千ト、推定出回りが6.2千ト、輸入売渡数量が1.0千トとなり、供給量が需要量を上回った結果、在庫量は0.3千ト増加して32.3千トとなった。在庫量は11カ月連続で前年水準を上回っている。

【8月および8/25週の販売動向データ】

- 飲用等向け乳価の改定が行われた8月の牛乳類の販売個数は、4品目いずれも前年水準を下回った。1カ月の平均販売単価は、7月との価格差が牛乳で+9.1円、牛乳類トータルで+9.0円上昇した。販売業態別に見ると、コンビニエンスストアで販売されている製品の価格上昇幅が大きく、ドラッグストアの上昇幅が相対的に小さい。直近週(8/25週)の販売動向では、牛乳類トータルの販売個数が5週連続で前年割れとなったものの減少率は若干縮小した。平均販売単価は、7/21週との価格差が牛乳で+10.1円、牛乳類トータルで+9.8円と前週からほぼ横ばいでの推移となった。
- 発酵乳の合計販売個数は、直近週(8/25週)で7週ぶりに前年水準を上回った。内訳を見ると、ドリンクタイプが20週ぶり、大容量タイプは52週連続で前年水準を上回った一方、個食タイプは20週連続で前年水準を下回っている。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1)7月の生乳生産量は、全国613.8千ト(前年同月比101.2%)、北海道363.2千ト(同102.1%)、都府県250.6千ト(同99.9%)。
- (2)8月1日に公表したJミルク予測値(全国615.1千ト、北海道366.1千ト、都府県248.9千ト)との比較は北海道が下振れ、都府県が上振れした。
- (3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が8月中旬(最新、以下同)で同102.8%、都府県(沖縄除く)が同102.2%、北海道は8月下旬で同102.2%となった。

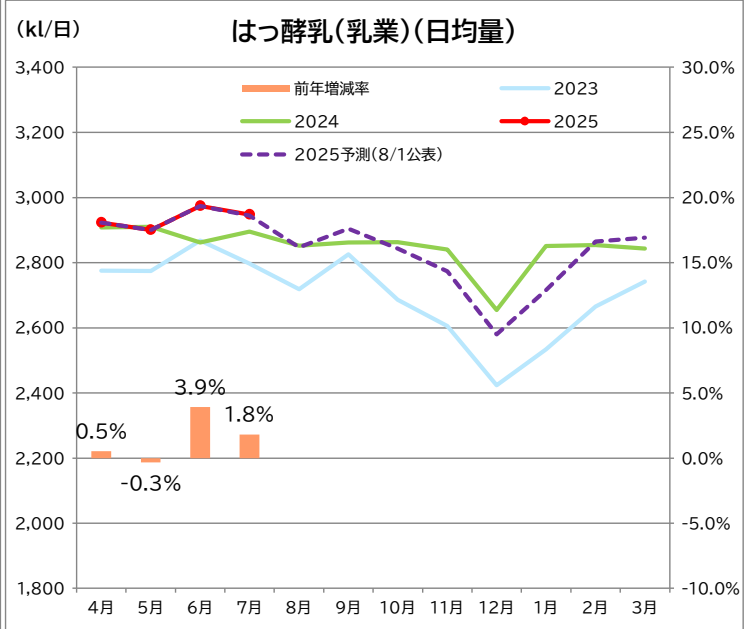
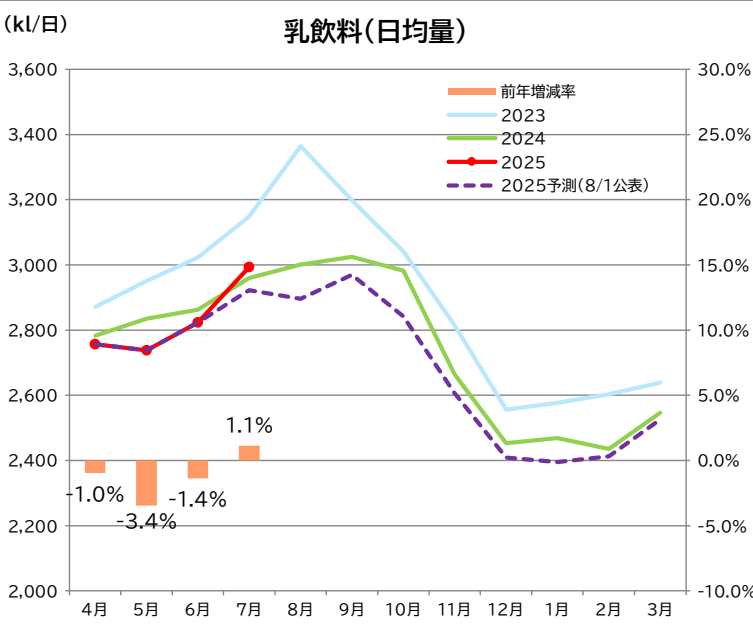
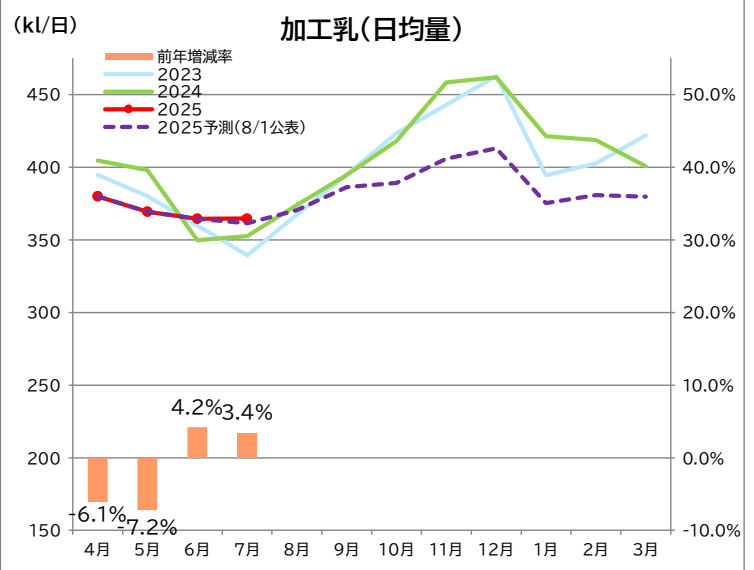
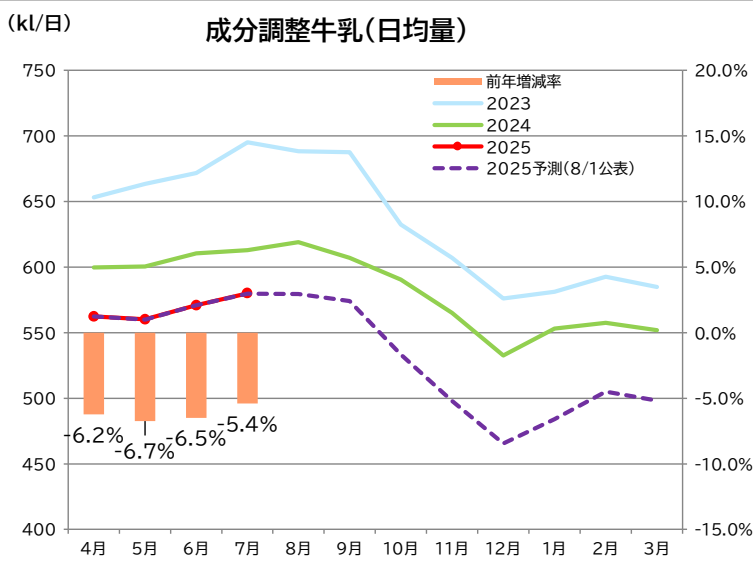
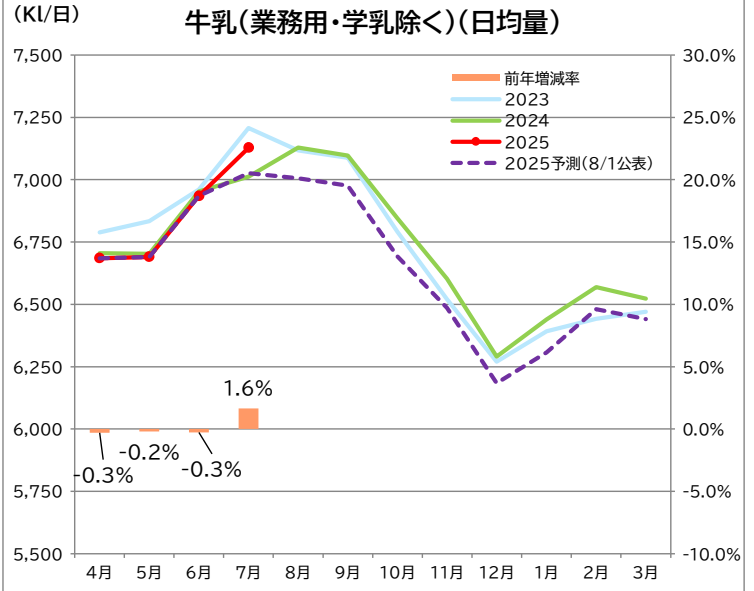
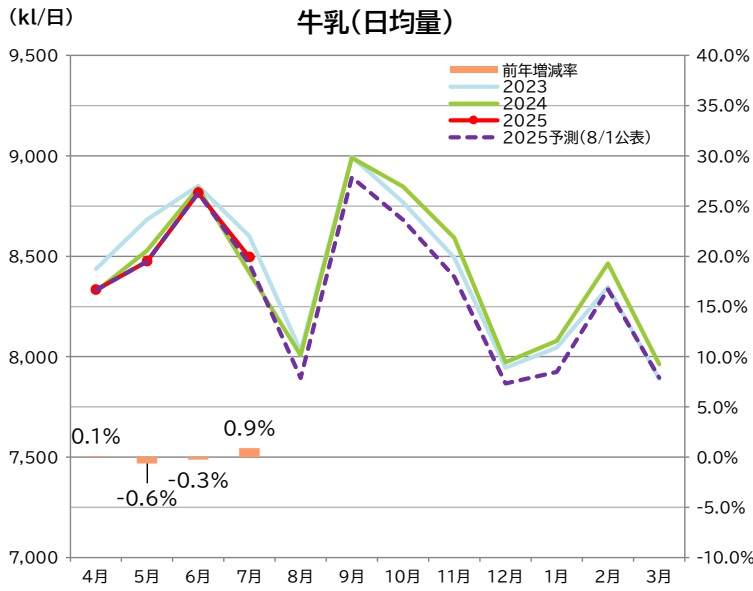


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)7月の牛乳等生産量は、牛乳263.3千kl(前年同月比100.9%)、成分調整牛乳18.0千kl(同94.6%)、加工乳11.3千kl(同103.4%)、乳飲料92.9千kl(同101.1%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、385.4千kl(同100.7%)となり、35カ月ぶりに前年を上回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同101.6%、「業務用」は同94.1%、「学乳」は100.1%。

(3)はっ酵乳(乳業)は91.4千kl(同101.8%)、はっ酵乳(非乳業:6月実績)は97.8%となった。

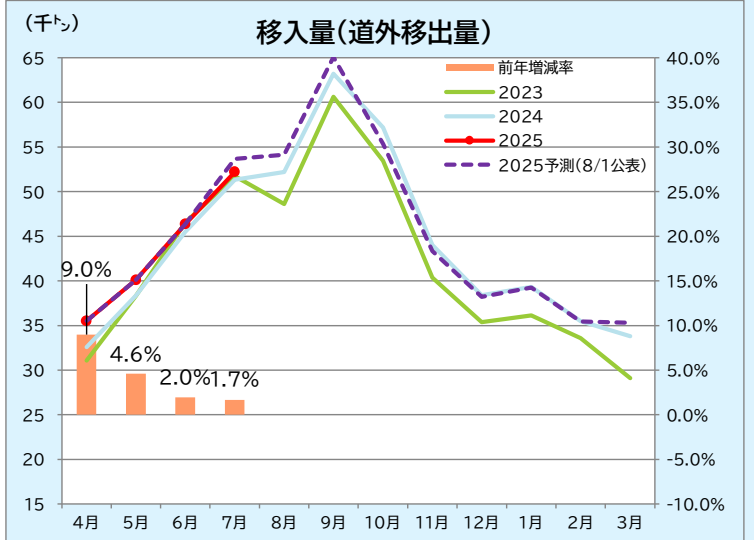
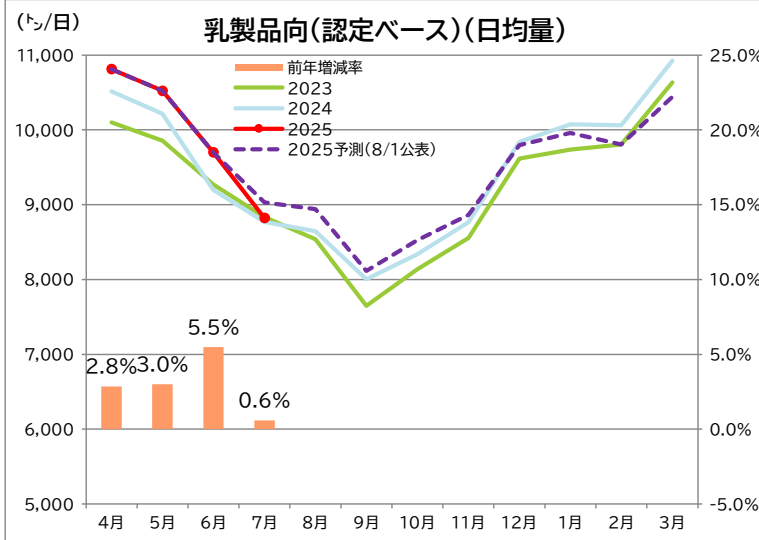
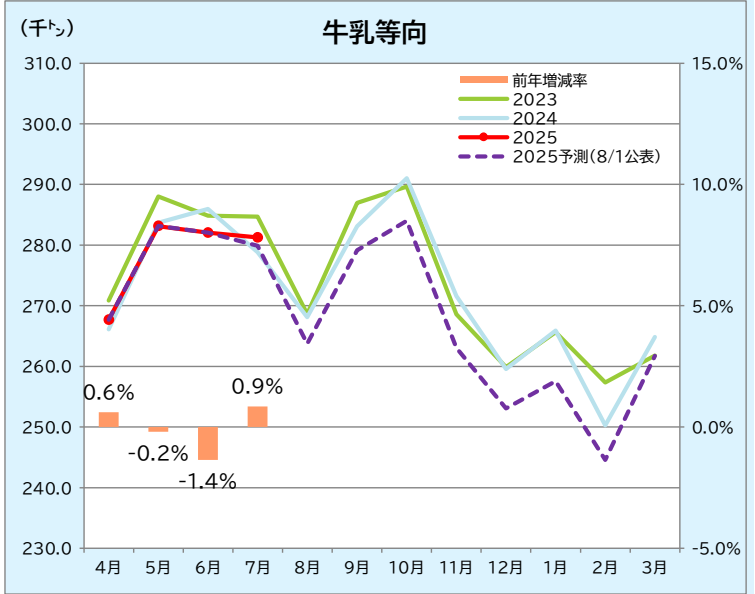
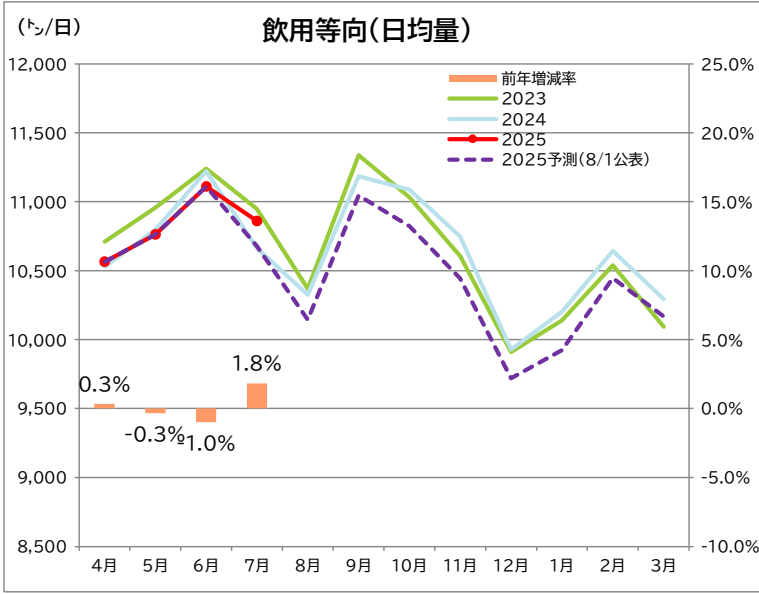
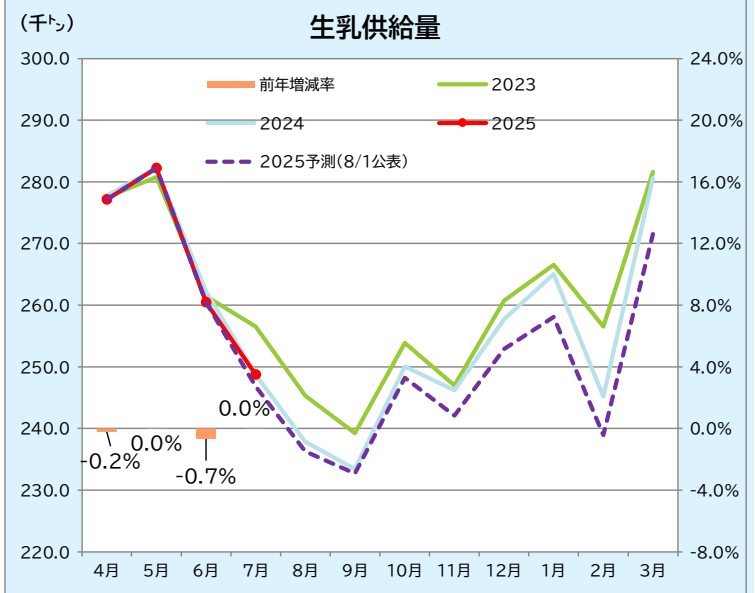
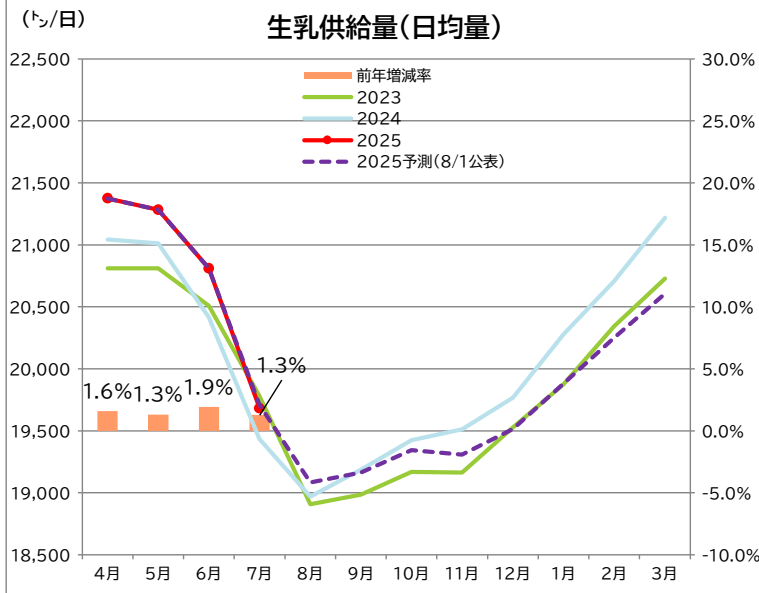


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)7月の生乳供給量は610.1千トン(前年同月比101.3%)、飲用等向336.6千トン(同101.8%)、乳製品向(認定ベース)273.5千トン(同100.6%)。
 (2)飲用等向が3か月ぶりに前年を上回り、生乳供給量は12カ月連続で前年を上回り、結果として乳製品向も12か月連続で前年を上回った。
 (3)8月1日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:611.0千トン)は5下振れ、飲用等向(予測値:331.0千トン)は上振れ、乳製品向(予測値:280.0千トン)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)7月は、生乳供給量248.7千トン(前年同月比100.0%)、牛乳等向281.2千トン(同100.9%)。
 (2)北海道からの移入量については52.2千トン(同101.7%)と前年を上回った。
 (3)8月1日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:246.8千トン)は上振れ、牛乳等向(予測値:279.9千トン)も上振れ、移入量(予測値:53.7千トン)は下振れとなった。



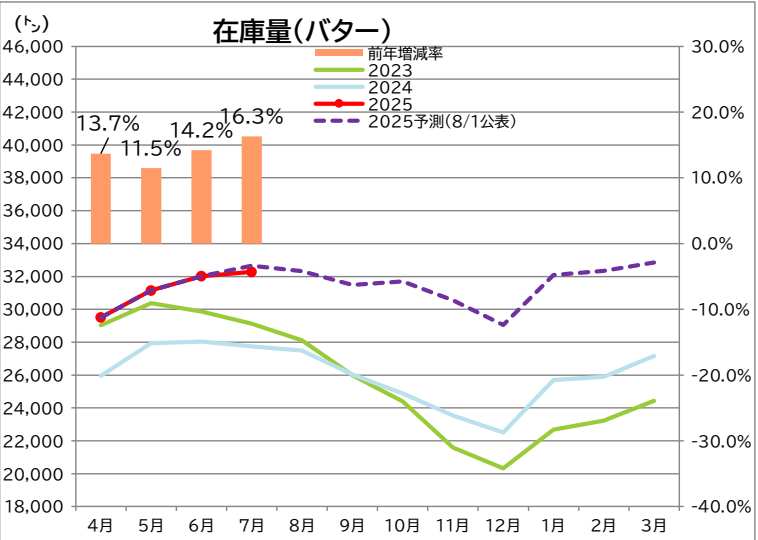
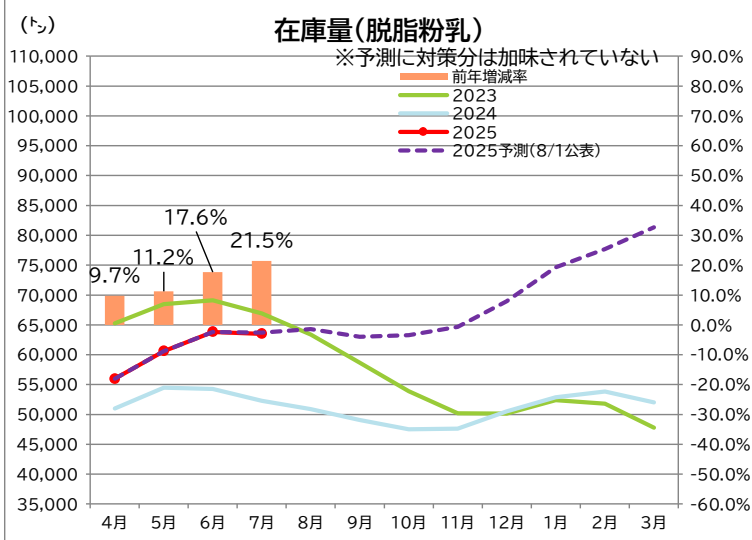
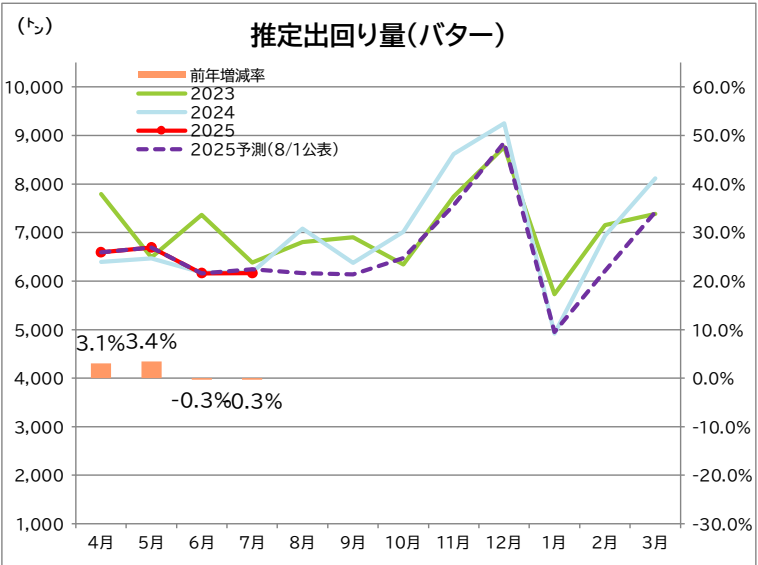
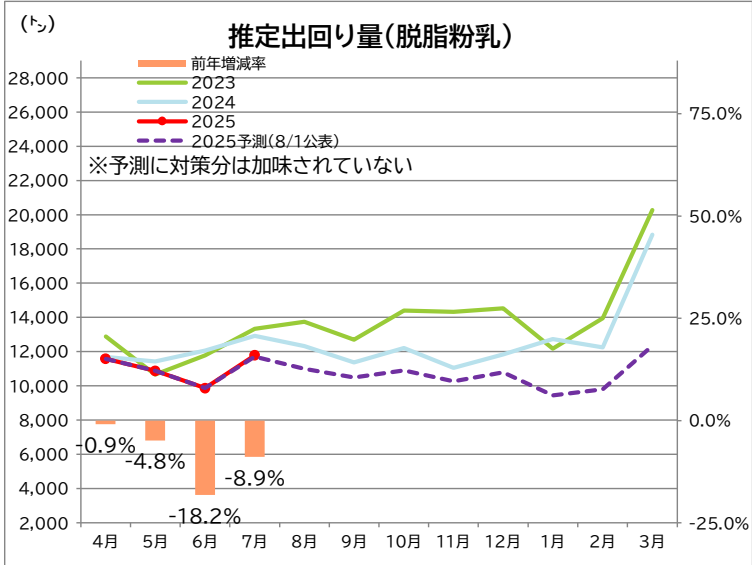
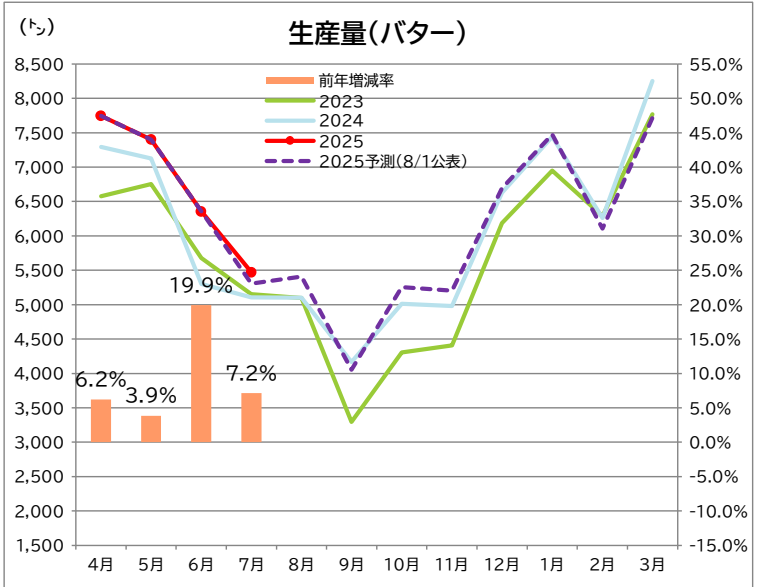
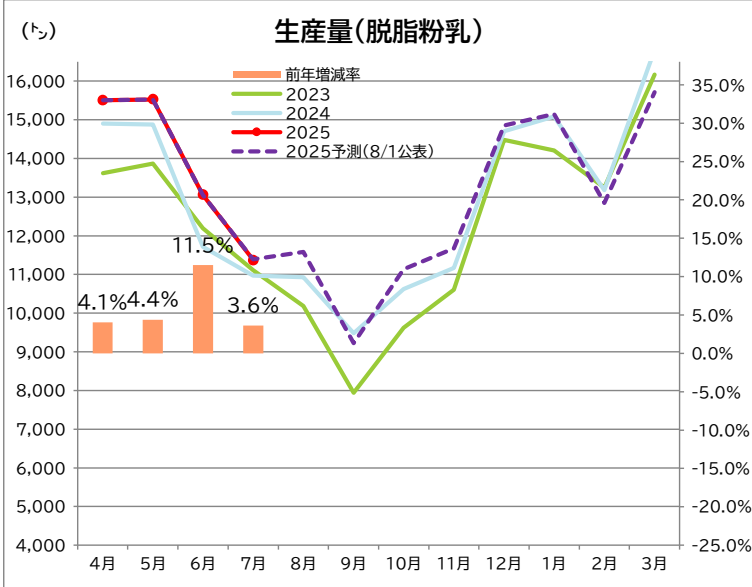
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1) 脱脂粉乳について7月の生産量は11.4千ト(前年同月103.6%)、推定出回り量は11.8千ト(同91.1%)となった。出回り量が生産量を上回ったため在庫量は前月から0.3千ト程度減少し、63.5千ト(同121.5%)となった。在庫量は昨年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回り、8カ月連続で前年水準超えで推移している。在庫量が6万トを上回るのは、3カ月連続となる。

※なお、推定出回り量の実績について、前年度の実績から在庫対策を差し引いた数量との比較は107.3%。

(2) バターについて、7月の生産量は5.5千ト(同107.2%)、推定出回り量は6.2千ト(同99.7%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.0千ト)も考慮すると在庫量は前月から約0.3千ト増加し32.3千ト(同116.3%)となった。在庫量は10カ月連続で前年超え。

▶脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)8月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比99.2%、成分調整牛乳:同92.4%、加工乳:同90.5%、乳飲料:同97.8%。牛乳類全体:同98.4%

【参考】2023年8月比…牛乳:99.9%、成分調整牛乳:83.9%、加工乳:95.1%、乳飲料:91.9%(牛乳類トータル:97.5%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(8/25)の販売個数は、牛乳:前年同期比99.2%、成分調整牛乳:同90.3%、加工乳:同86.3%、乳飲料:同99.4%。牛乳類トータルでは同98.4%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

単位:千個、円

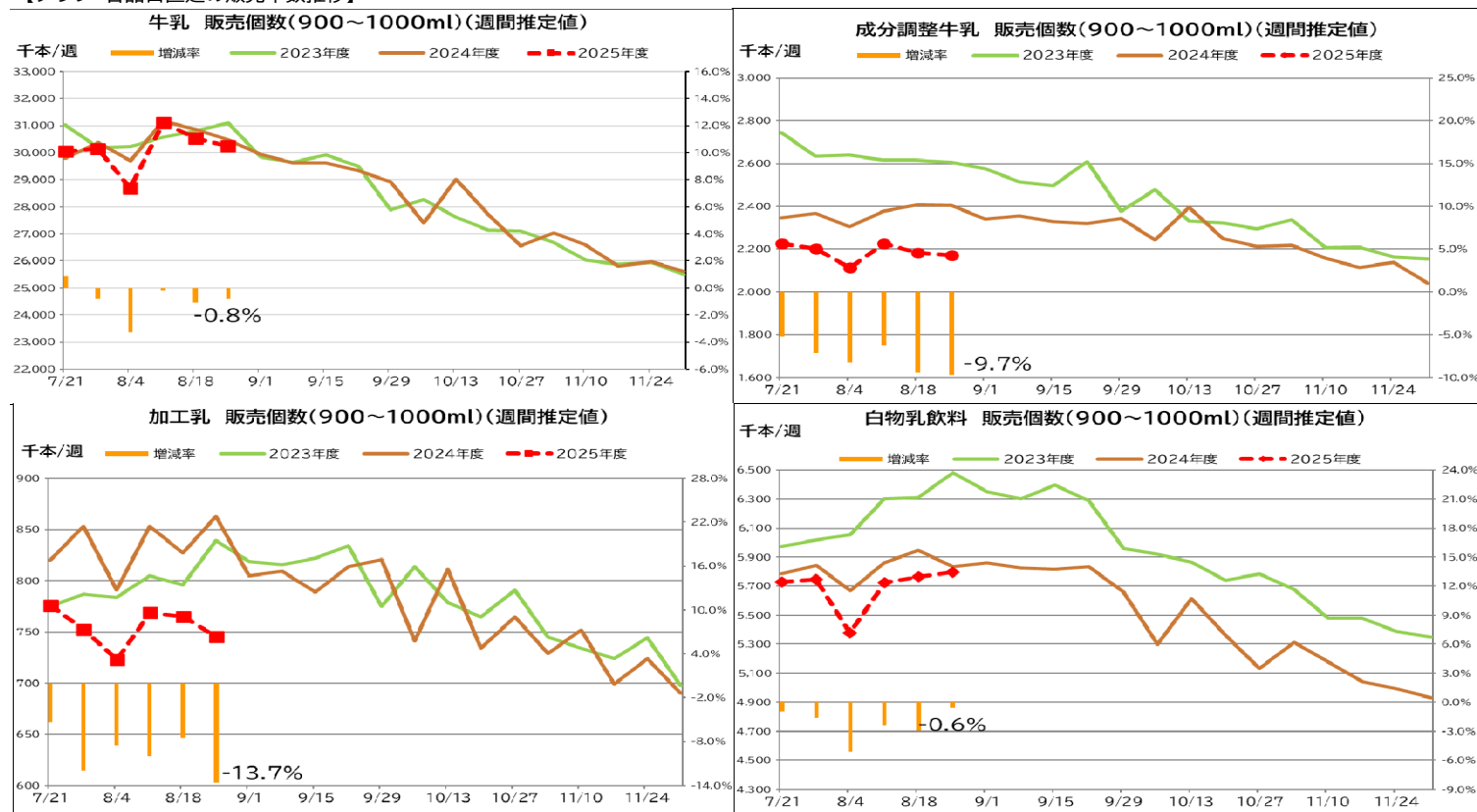
品目	区分	2025/3-	2025/4-	2025/5-	2025/6-	2025/7-	2025/8-	2025/8- 2022/10価格差	2025/8- 2023/3価格差	2025/8- 2023/7価格差	2025/8- 2025/7価格差
		販売個数	149,689	146,253	153,204	157,377	167,382	172,469			
トータル	販売個数前年比	98.7	95.6	96.9	96.9	99.1	98.4	42.2	27.1	25.3	9.0
	販売単価	215.6	215.9	216.1	216.0	216.3	225.3				
牛乳	販売個数	115,533	112,919	118,273	121,902	129,515	134,237				
	販売個数前年比	99.7	96.5	97.8	98.0	100.0	99.2	44.0	27.7	26.9	9.1
成分調整牛乳	販売個数	9,078	8,943	9,201	9,182	9,676	9,690				
	販売個数前年比	95.0	95.1	96.1	93.2	94.3	92.4	44.1	28.5	24.9	11.2
加工乳	販売個数	3,025	2,967	3,103	3,119	3,335	3,333				
	販売個数前年比	97.9	92.7	89.2	90.1	91.2	90.5	41.5	31.8	21.6	10.1
乳飲料	販売個数	22,053	21,424	22,627	23,173	24,855	25,209				
	販売個数前年比	94.3	91.7	93.5	94.0	97.6	97.8	30.3	19.7	16.0	6.2
	販売単価	173.1	173.4	173.7	173.6	173.6	179.8				

速報値

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	6.30-	7.7-	7.14-	7.21-	7.28-	8.4-	8.11-	8.18-	8.25-	25.8.25- 22.10.24 価格差	25.8.25- 23.3.20 価格差	25.8.25- 23.7.24 価格差	25.8.25- 25.7.21 価格差
		販売個数	37,793	37,884	36,914	38,790	38,834	36,922	39,822	39,241	38,947			
トータル	販売個数前年比	99.0	102.5	95.3	100.1	98.5	96.0	98.9	98.0	98.4	43.1	28.2	25.8	9.8
	販売単価	216.1	216.0	216.1	216.5	218.1	224.9	226.3	226.3	226.3				
牛乳	販売個数	29,201	29,323	28,528	30,060	30,133	28,706	31,103	30,528	30,232				
	販売個数前年比	99.8	103.4	96.2	100.9	99.2	96.7	99.8	98.9	99.2	45.1	28.8	27.6	10.1
成分調整牛乳	販売個数	2,212	2,148	2,190	2,225	2,200	2,113	2,227	2,183	2,172				
	販売個数前年比	96.9	95.5	92.6	94.8	92.9	91.7	93.7	90.6	90.3	45.7	30.9	26.0	12.8
加工乳	販売個数	765	751	734	776	752	723	769	765	745				
	販売個数前年比	90.0	96.0	86.0	94.6	88.1	91.4	90.1	92.5	86.3	41.7	31.8	21.8	11.8
乳飲料	販売個数	5,615	5,662	5,462	5,730	5,749	5,379	5,724	5,765	5,798				
	販売個数前年比	96.9	101.5	93.4	99.0	98.4	94.9	97.6	97.0	99.4	31.0	21.2	16.5	7.5
	販売単価	173.9	173.6	173.5	173.2	175.1	179.6	179.9	180.5	180.7				

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

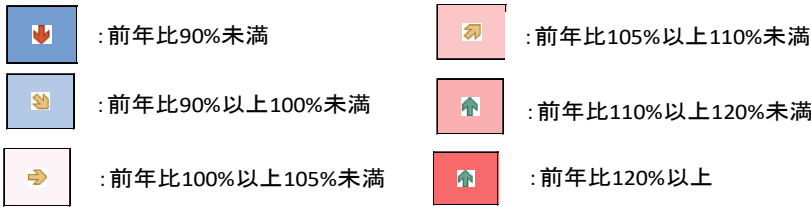
直近(8/25週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同105%以上。はっ酵乳全体としては、前年を上回った。(3品目合計前年同期比100%以上)。

(2)販売個数について、前週(8/25週)との比較では、ドリンクタイプと個食タイプが減少した一方、大容量タイプは増加した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

品目	7.7-	7.14-	7.21-	7.28-	8.4-	8.11-	8.18-	8.25-
ドリンクタイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↑	→	↗	→	→	→	→	↗



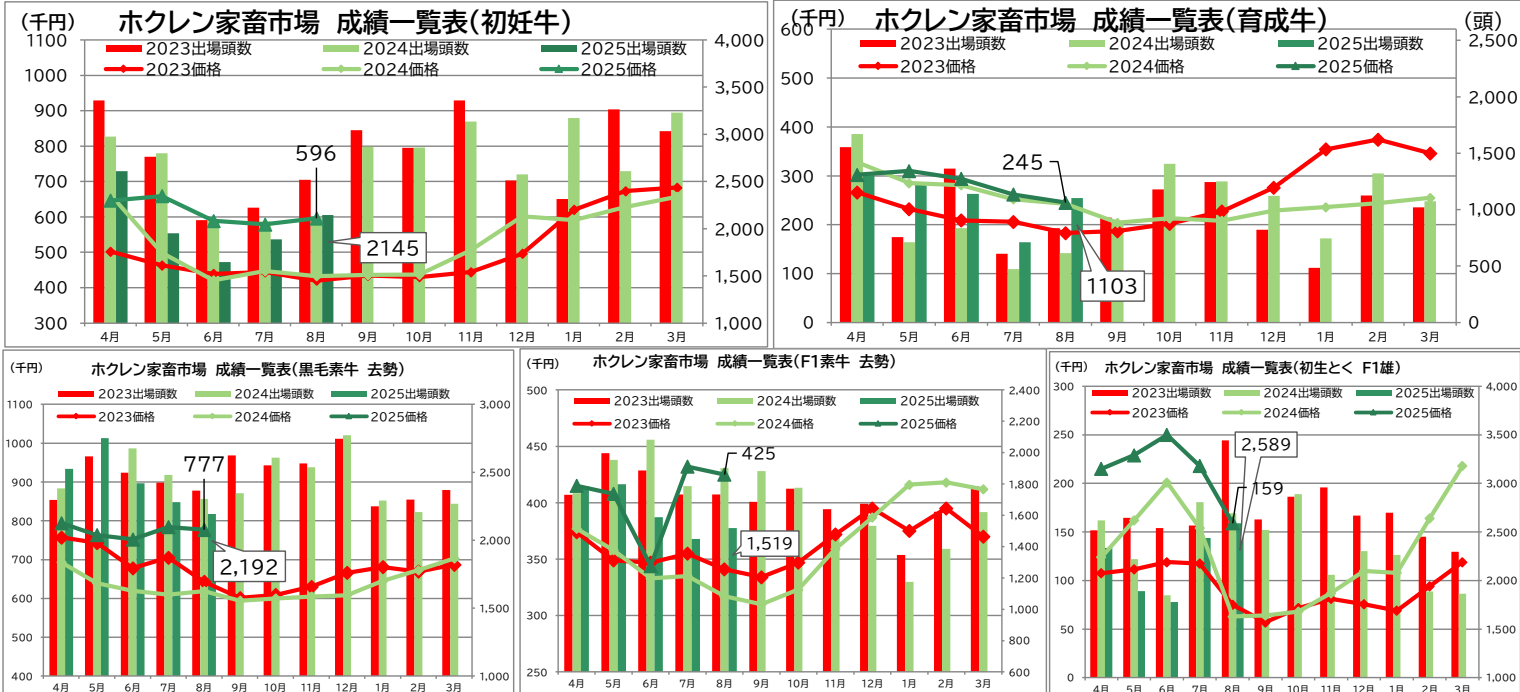
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)8月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は596千円(前年同期比137.6%)、育成牛価格は245千円(同100.8%)、和牛素牛(去勢)価格777千円(同125.5%)、F1素牛(去勢)価格は425千円(同134.1%)。初妊牛は3か月連続で50万円台、育成牛は3力連続で20万円台。ホル初生(雄)価格は31千円(同238.5%)と、2か月連続で前年水準を上回った(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同101.3%、育成牛:同179.1%、F1初生(雄):同96.2%、和牛素牛(去勢):同95.2%、F1素牛(去勢):同79.9%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



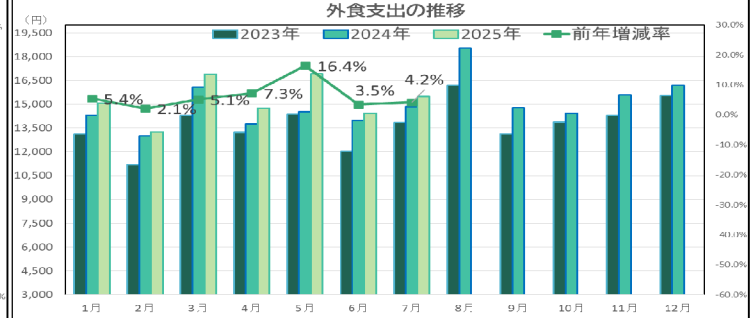
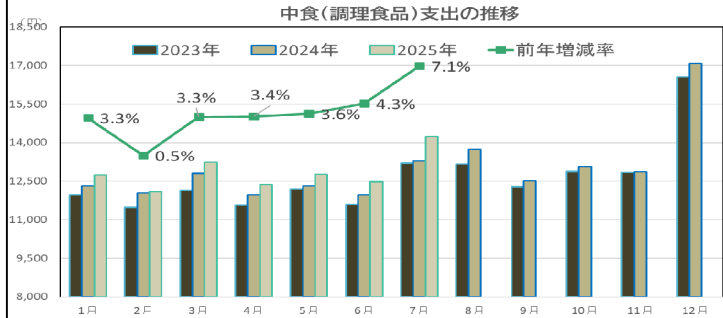
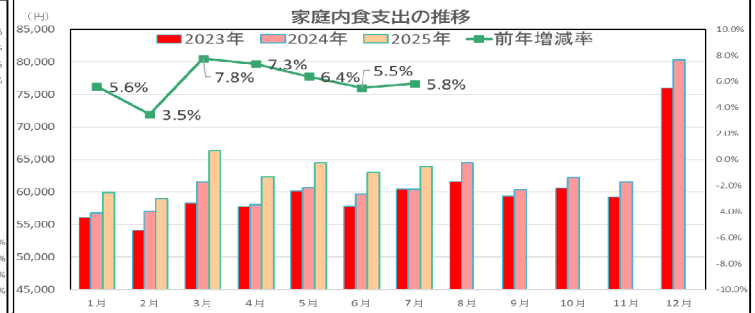
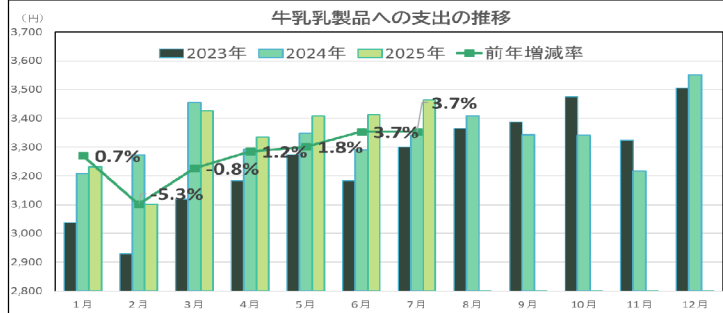
【家計支出の動向】

(1)7月の支出額前年比について、外食104.2%、中食107.1%、内食105.8%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は105.7%となった。

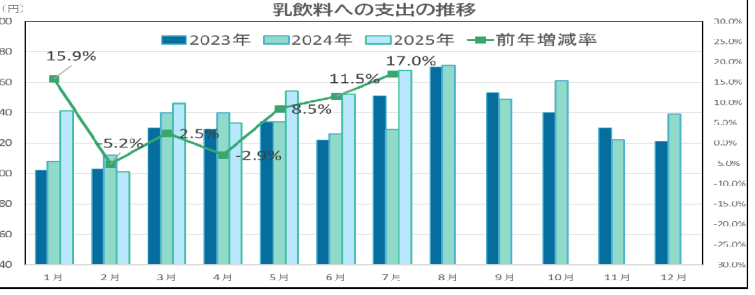
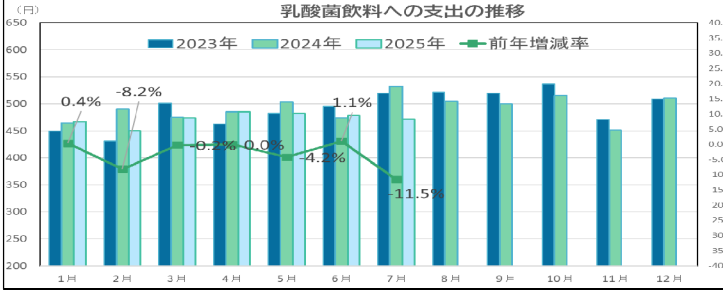
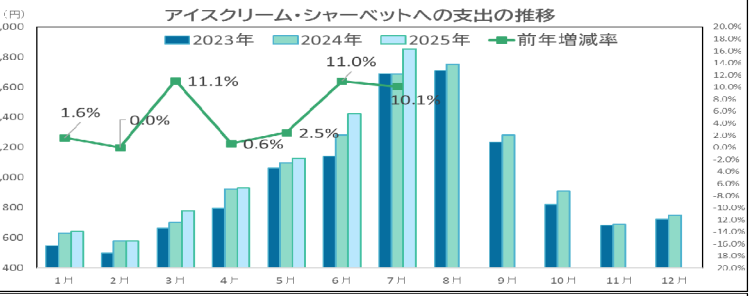
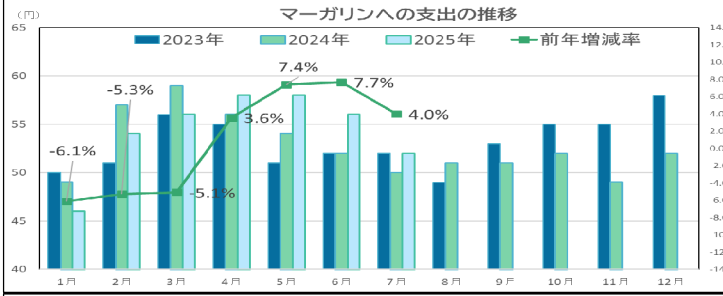
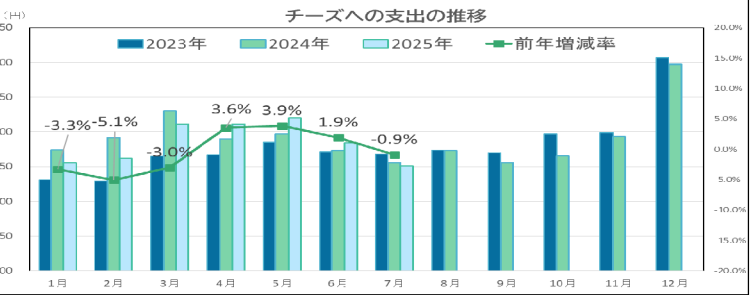
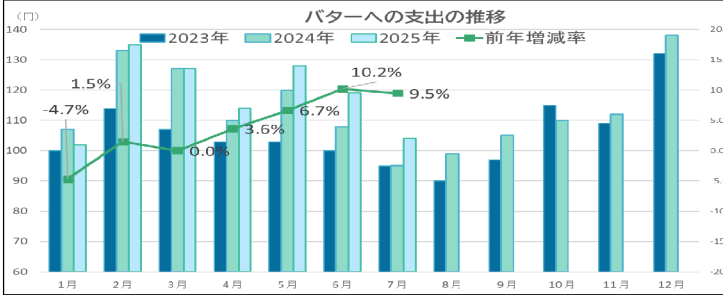
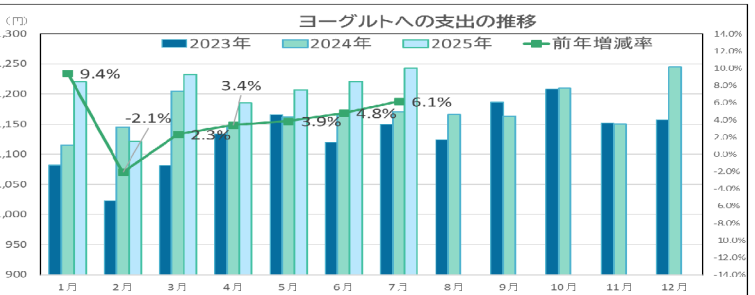
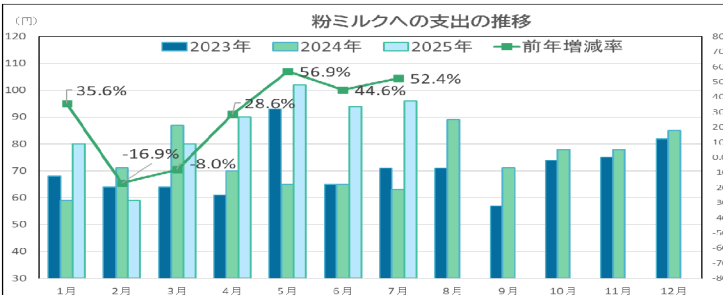
(2)牛乳乳製品の支出額も前年比103.7%(うち牛乳99.9%、乳製品106.4%)と4カ月連続で前年を上回った。

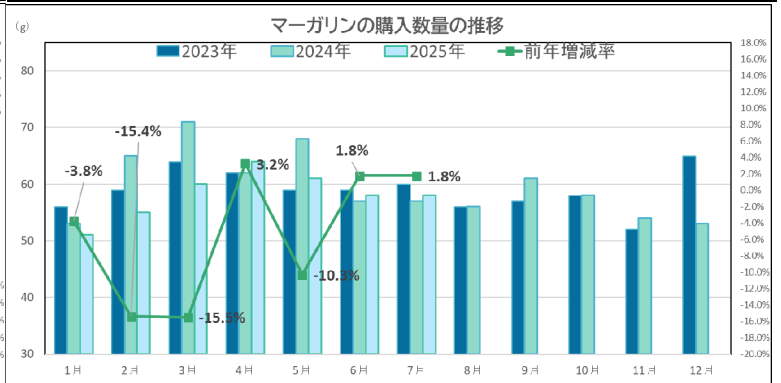
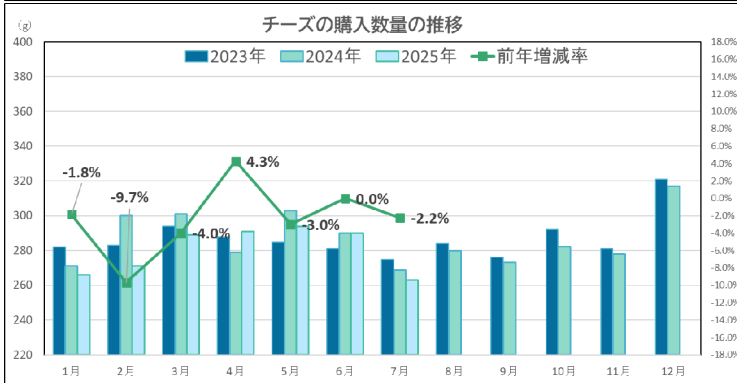
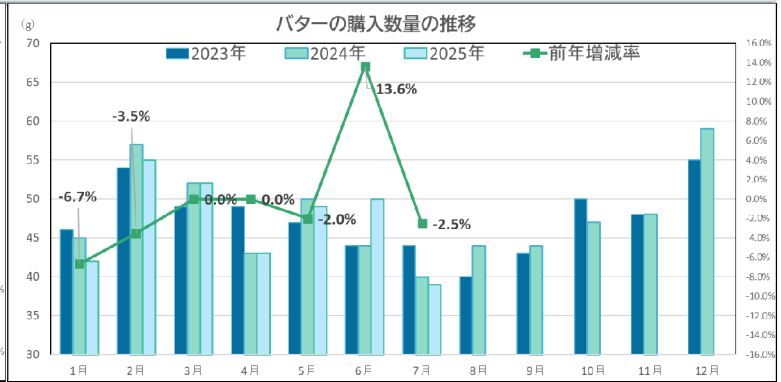
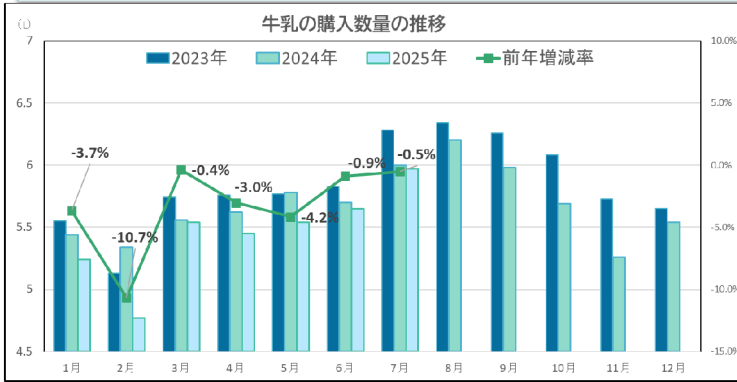
(3)なお、購入量は、牛乳99.5%(1世帯当たり6.0)と14か月連続で前年割れ。チーズは2カ月ぶりに前年割れ、バターも2カ月ぶりに前年割れとなった。

※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



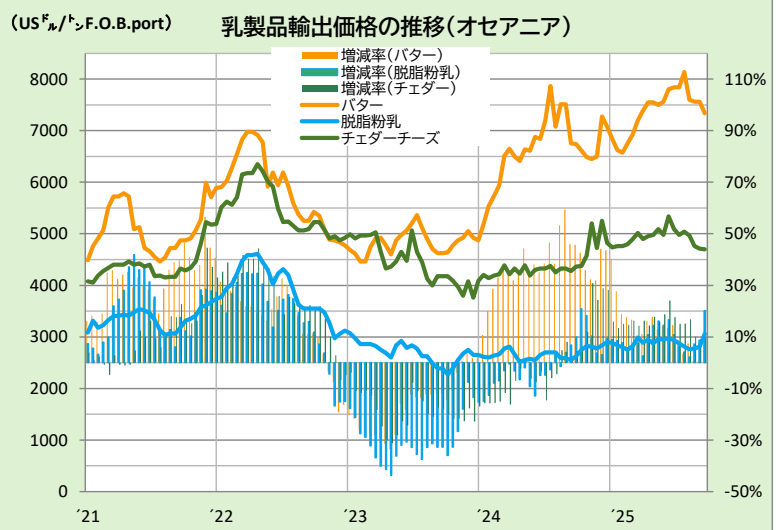
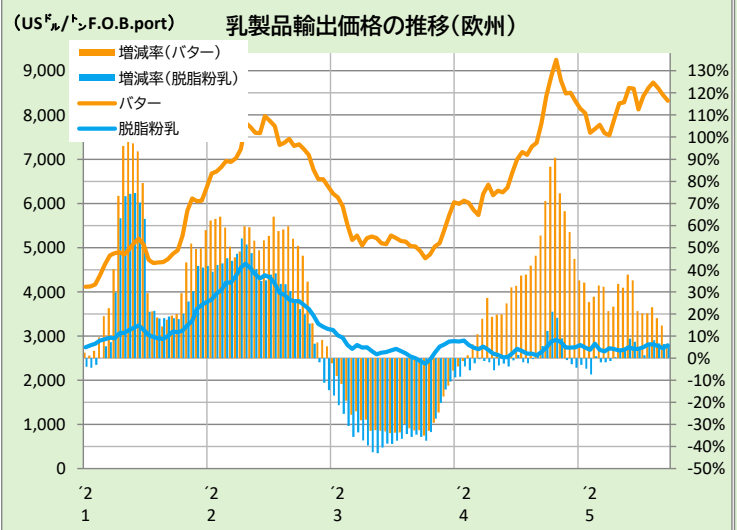


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(9月中旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,788ドル/ト、バター8,325ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳3,063ドル/ト、バター7,338ドル/ト、チェダーチーズは4,700ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2025年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」